

令和4年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業
申請及び採択状況

	応募件数	採択	採択率
音楽	8	3	38%
舞踊	8	6	75%
演劇	17	11	65%
大衆芸能	5	3	60%
伝統芸能	10	8	80%
その他	11	7	64%
年鑑・調査研究	16	12	75%
合計	75	50	67%

令和4年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業 採択団体一覧

*新型コロナウイルス感染防止対策等の理由により各事業内容やスケジュールに関して今後変更されることがあります。

通し番号	分野	団体名法人格	団体名称のみ	事業名	事業概要
1	音楽	公益社団法人	日本演奏連盟	新進演奏家育成プロジェクト①リサイタル・シリーズ（札幌・東京・名古屋・京都・大阪・大分）②オーケストラ・シリーズ（札幌・仙台・名古屋・大阪・広島・福岡）③公開マスタークラス	【概要】若手演奏家の育成を目的に、才能の発掘と演奏の場を提供する。 ①全国6都市におけるリサイタル・シリーズ 7月～令和5年1月（20回） ②全国6都市におけるオーケストラ・シリーズ 令和5年1月～2月（6回） ③トップクラスの演奏家を招いた公開マスタークラス 10月21日/11月30日 【対象者】若手演奏家
2	音楽	公益社団法人	日本オーケストラ連盟	明日を担う音楽家たち2023～新進芸術家海外研修制度の成果～	【概要】文化庁「新進芸術家海外研修制度」を修了した者の中から、注目される新進音楽家を紹介することを目的に「明日を担う音楽家たち2023」を開催する。参加者は過去5年程度の期間で本制度で研鑽を積んだものの中から、研修後の活動状況、将来性などを勘案し、文化庁と協議の上決定する。 ◎演奏会（予定）2023年2月 【対象者】文化庁「新進芸術家海外研修制度（音楽）」研修修了者
3	音楽	学校法人	東成学園（昭和音楽大学）	海外著名オペラ・フェスティバルへの歌手人材の派遣を通じて達成する国際的歌手育成	【概要】国際舞台上活躍する若手歌手を輩出するために、若手の登竜門として知られるロッシーニフェスティバルの育成機関「アカデミア・ロッシーニアーナ」に選ばれることを目標に歌手を公募し育成する。そのために世界最高レベルの歌手を多数育成し、同フェスティバルの総裁であるエルネスト・パラシオ氏を招聘してマスタークラスを開催し、オーディションを行い推薦者を決定する。札幌と関西と結んでのリモートレッスンも設定する。カルメン・サントロ氏によるコレペティートル育成も公募により実施する。 【対象者】若手歌手は32歳を上限の目安とする。コレペティートルは35歳程度を目安とする。
4	舞踊	公益社団法人	日本バレエ協会	令和4年度新進バレエ芸術家育成事業	【概要】未だ研鑽中の青少年から若手・中堅に至るまで次代を担うバレエ芸術家を全国に求めて支援する事を目的とする。青少年については技能と並んで持続可能なモチベーション向上を図る事業を、若手・中堅に対しては規模の大きい舞台を用意して自らの表現、或いは作品を積極的に世に問う機会を提供。 ①全国合同バレエのタベ 8月12日・14日（2回公演） ②全日本バレエ・コンクール 8月17日～21日（5日間） ③Balletクレーション 11月15日（1回） 【対象者】①ダンサー、振付家 ②ダンサー ③振付家、ダンサー
5	舞踊	一般社団法人	現代舞踊協会	現代舞踊新進芸術家育成Project	【概要】「振付家の育成・ダンサーの強化」「新たな才能の発掘」「アーティスト（才能）のステップアップ」を計り、持続性や多様性のある育成プログラムを構築する。 ①-1：選抜新人舞踊公演2022 ①-1：1日舞踊大学講座 ②-1：Choreographer's Concert vol.2 ③-1：現代舞踊フェスティバルin秋田 ③-2：夏期舞踊大学講座
6	舞踊	一般社団法人	日本バレエ団連盟	新進バレエダンサー・運営スタッフの育成、並びにバレエ団運営基盤整備および次世代の観客育成に向けた調査	【概要】新進バレエダンサー、バレエ団運営スタッフ、次世代の観客育成の3つの側面から、舞台芸術を支える人材の育成を行う。 ①優秀指導者によるマスタークラス（計20クラス）・公開レッスン（1回） ②バレエダンサー向けセミナー、運営スタッフ向けセミナー（各1回） ③海外実演団体運営状況調査および運営スタッフ育成に向けた調査・資料作成（5月～令和3年3月） ④次世代の観客育成に向けたデータ整備、オンライン調査（5月～令和3年3月） 【対象者】日本バレエ団連盟に加盟するバレエ団員、付属研修所研修生、運営スタッフ等
7	舞踊	NPO法人	ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク（JCDN）	コンテンポラリーダンス新進振付家育成事業2022	【概要】2019年以降にJCDNが新たに立ち上げた振付家育成プロジェクト「KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD」「choreographers」「ダンスでいこう！！」を相互に連動させながら、全国にまたがり総合的な観点でコンテンポラリーダンスの若手振付家を育成・支援するプロジェクト。 <2022のプログラム> 総合サイト https://choreographers.jcdn.org/ I 新進気鋭の振付家が世界に羽ばたくためのアワード：「KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD 2022—若手振付家によるダンス公演&作品を巡るディスカッション—」 2023年1月28日・29日（土・日） 会場：京都府民ホールALTI II 全国の公共ホールとのネットワークによる再演プラットフォーム：「Choreographers 2022」 静岡、沖縄で開催予定 III 振付家を目指す若手を対象とした各地のプログラム：「ダンスでいこう！！2022」札幌、金沢、名古屋、松山にて若手育成プログラムを行うほか、制作者セミナーを予定 【対象者】コンテンポラリーダンスの若手振付家・振付家を目指す人、コンテンポラリーダンスを支える人、観客など
8	舞踊	特定非営利活動法人	ダンスボックス	国内ダンス留学@神戸 第8期+	【概要】世界が求める日本発のコンテンポラリーダンスアーティスト、独自のビジョンで次代のダンスシーンを拓くアーティストを育成する8ヶ月間の集中プログラム。（令和4年7月25日～令和5年3月23日）。「留学NEXT」、「子どもダンス留学」（令和4年8月15日～21日）も実施。 【対象者】振付家、ダンサーとして活動していく意志のある者。より高い技術や深い知識を得たい既に活動を始めているダンスアーティスト。
9	舞踊	株式会社	キャメルアーツ	舞踊ワークショップ&舞踊家育成公演	【概要】舞踊の基礎レッスンを希望する、舞台芸術及び文化芸術に携わりたい方々へ開かれた場として行う事を目的とした舞踊ワークショップと、次世代を担い世界に通用する振付・演出家の育成及び舞踊家として活動している方々の更なるブラッシュアップとなる公演を実施。 ・舞踊ワークショップ 全10回(週2回×5週)を年3回（4月、11月、2月） ・舞踊家育成公演 10月21日～10月23日（4回） 【対象者】舞踊の基礎・手法の取得を志す者、舞踊の振付・演出家、舞踊家
10	演劇	一般社団法人	日本演出者協会	【次代の若手演出家育成事業】①演出家・俳優養成セミナー2022 演劇大学②国際演劇交流セミナー2022③日本の戯曲研修セミナー2022④若手演出家コンクール2022	【概要】日本各地にて演劇文化を深め拡げるため、セミナー等を開催する。 ①演劇大学（四国7月～11月、筑後7月～10月、大阪1月） ②国際演劇交流セミナー（韓国8月、オーストラリア特集9月） ③日本の戯曲研修セミナー（福岡7月～11月、オンライン①9月～12月、オンライン②9月～10月、大阪9月、東海1月、東京名古屋1月～2月） ④若手演出家コンクール（3月）、コンクール記念公演3月 【対象者】若手演出家、俳優
11	演劇	一般社団法人	日本劇作家協会	次代を担う劇作家を育成するためのプロジェクト	【概要】次代を担う新進の劇作家を育成するために、講座とドラマリーディングを連動させた総合的で実践的な事業を実施。全国、東京、大阪、九州、東北にて定期的なドラマリーディングのワークショップ、東京、大阪にてドラマリーディング発表会・研究会の開催ほか、個別指導の「研修課」、公開講座、「せりふの読み方」ワークショップを実施 通年 【対象者】新進劇作家
12	演劇	公益社団法人	国際演劇協会日本センター	「次代の翻訳者育成セミナー」（「ワールド・シアター・ラボ」）	【概要】海外の戯曲や若い世代によって作られた現代的な戯曲を、国内の新進の翻訳者が翻訳し、リーディング上演を行う。あわせてワークショップやレクチャーを実施する。 ①ワークショップとレクチャー 令和3年8月～令和4年1月、②リーディング上演 令和4年2月16日～19日 【対象者】翻訳家、演出家、俳優

令和4年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業 採択団体一覧

*新型コロナウイルス感染防止対策等の理由により各事業内容やスケジュールに関して今後変更されることがあります。

通し番号	分野	団体名法人格	団体名称のみ	事業名	事業概要
13	演劇	一般社団法人	全国専門人形劇協議会	専門人形劇演技者育成講座2022～2023	【概要】我が国の人形劇ジャンルを牽引している講師、また人形劇分野に直接取り入れることの出来る技術や経験を有する他ジャンルの講師による講座を開催することで、次代の人形劇分野を形成する優秀な人材を育成する。全国6か所(東京・神奈川・愛知・京都・大阪・香川)で計14講座を開催。 【対象者】経験15年以下の現役専門人形劇演技者。
14	演劇	公益社団法人	日本劇団協議会	「日本の演劇人を育てるプロジェクト」	【概要】統括団体ならではの幅広い視野と専門性を活かし、個々の芸術団体単独では実現の難しい公演やワークショップを多彩に実施することにより、新進気鋭の演劇人にスキルアップの機会を提供し、今後の演劇界を担う人材を育成する。『「日本の劇」戯曲賞 10月』『海外研修(文化庁新進芸術家海外研修制度)の成果公演 令和5年1月』『新進演劇人育成公演 6月・11月・令和5年2月』『新進劇団育成公演 令和5年2月』『新進演劇人育成講座 7月～令和5年2月』 【対象者】将来有望な劇作家、演出家、俳優、劇団等
15	演劇		日本児童・青少年演劇劇団協同組合	次代の児童・青少年演劇人育成 連続講座	【概要】次代の児童・青少年演劇実践者を育成するための講座を全国各地で全18プログラム実施する。 TYA創作ワークショップ/脳科学から学ぶ子どものための舞台芸術/ペイペシアターの普及『K U U K I』の上演/ゲキミテーク/学芸会指導者養成講座/旅する学校 in 中部『コミュニケーション教育の現場に行くために』/文楽・三人遣いに学ぶ技術とコミュニケーション/発声講座～声楽から学ぶ声の魅力～ など。(開催予定期間:2022年6月～2023年2月) 【対象者】児童・青少年演劇に関わる演劇人又は興味のある人、子どものためのアーティストなど。
16	演劇	一般社団法人	日韓演劇交流センター	韓国現代戯曲ドラマリーディング ネクストステップVol.1 (仮)	【概要】現代韓国戯曲の翻訳とリーディング上演とシンポジウム。2023年1月23日(月)～29日(日)座・高円寺1にて。ユン・ソンホ作『寂しい人、辛い人、悲しい人』、ジョン・ギョンジン作『青々たる日に』の上演。シンポジウム『次世代の日韓演劇交流』(仮)を実施するなど。 【対象者】韓国戯曲翻訳者を公募。作品の演出者を公募。出演者の公募 プロとしての経験10年以下、もしくは、35歳以下などを対象。
17	演劇	特定非営利活動法人	愛知人形劇センター	P新人賞2022	【概要】人形劇分野の新たな人材の発掘と人形劇創造を目指す若手芸術家の育成を目的としたコンクールを開催する。 一般公募:7～9月中旬、第一次選考:10月、上演団体実技指導 1月～2月上旬 音響・照明技術講習会及び最終選考上演会:2月17日～19日 【対象者】人形劇やオブジェ、身体表現にて作品を創造する個人、団体(年齢、経験、国籍、アマ・プロを問わない)。
18	演劇	一般社団法人	エーシーオー沖縄	身体性と音楽性を融合したノンバーバル作品制作のための児童・青少年演劇若手アーティスト育成講座	【概要】国際経験豊かな海外からの講師による実践的な講座やワークショップを実施し、国際交流や共同制作に必要な新たな視点や考え方を学び今後日本の児童青少年演劇を切り拓き新たな作品や手法、特にをもって世界で活躍できる素質を持ったアーティストの育成を目指す。特に「ノンバーバル」に視点を置き、身体性と音楽性を取り入れた作品づくりを中心にワークショップを実施。ワークショップ:2022年7月23日～31日 【対象者】児童青少年演劇&演劇に関わる若手アーティスト
19	演劇	一般社団法人	江原河畔劇場	世界をめざす劇場芸術家養成事業-演劇人コンクール2022	【概要】劇場文化と舞台芸術を担う次代の才能を発掘・支援し、作品創造に携わる演出家のみならず、作品を創造する集団や俳優、スタッフなどすべての能力向上を図り、芸術としての舞台芸術の発展に寄与することを目的とするコンクールを実施する。コロナ禍において若い演出家でも参加しやすく、且つ、多角的な視点で演出力を測ることが可能なよう「第一次上演審査」「最終上演審査」の二段階の形式で開催。 ・第一次上演審査 前半6月4日(土)～5日(日)、後半6月11日(土)～12日(日) ・最終上演審査 9月 【対象者】舞台創造分野での舞台芸術家 ・第一次上演審査 演出家8名 俳優のべ30名
20	演劇	社会福祉法人	トット基金日本ろう者劇団	次代を担うろう者の新進芸術家育成事業2022	【概要】40年をかけて完成させた手話狂言の継続のため、次代を担うろう者の発掘と育成をはかる。また既存のろうアーティストに学びの場を提供し、レベルアップをはかる。手話狂言ワークショップ:6月～11月(10回)/能舞台における体験発表会(11月)/演劇スタッフワーク基礎講座・演出12月～2月(5回) 【対象者】ろう児及び成人のろう者。演出講座はオンラインにより全国のろう者に呼びかける。
21	大衆芸能	公益社団法人	落語芸術協会	若手落語家育成公演	【概要】大衆芸能の素晴らしさを多くの人に知ってもらい、ひいては魅力的かつ創造性豊かな人材を育成するために都内外にて落語会を開催。お江戸日本橋亭56公演、東村山土曜寄席5公演、羽村ゆとろぎ寄席4公演、児童対象公演(浅草演芸ホール7公演、横浜にぎわい座7公演)、青森公演1公演、北海道公演2公演、九州～広島公演6公演、沼隈～尾道公演2公演、東西交流落語会1公演 【対象者】若手落語家
22	大衆芸能	公益社団法人	上方落語協会	上方若手落語家育成公演	【概要】劇場などへの出演機会が圧倒的に少ない上方の若手落語家に機会を創出。研さんを重ねることにより、次代を担う魅力ある人材を一人でも多く輩出。上方落語の普及につなげていく。 神戸新開地喜楽館20公演、長岡京3公演、倉敷市芸文館・小浜旭座各2公演、姫路西二階町七福座1公演の計28公演。 【対象者】若手落語家
23	大衆芸能	公益社団法人	日本奇術協会	令和4年度 奇術の登竜門	【概要】文化事業として奇術の世界の芸術性を高め新進芸術家を育成する事、また指導者の水準を上げる事、そして観客の中から次世代の芸術家を目指す機会になる舞台を作り上げてゆくことを目的とする。育成公演 福島県2公演、長野県1公演、兵庫県1公演 【育成対象者】協会入会後10～20年の中堅奇術家や若手奇術家 【対象者】
24	伝統芸能		当道音楽保存会	平家(平家琵琶)演奏家育成のための研修と廃絶曲の復元、および成果発表演奏会	【概要】若い有能な音楽家(箏曲家、地歌演奏家等)に、平家琵琶の演奏能力を習得させ、平家の魅力を体現できる演奏家を育成することを目的とし、研修、廃絶曲の復元、成果発表演奏会を実施する。 ①研修 通年 ②廃絶曲の復元 通年 ③成果発表演奏会 7月～9月 【対象者】若手演奏家
25	伝統芸能	公益社団法人	日本三曲協会	三曲新進演奏家研修支援事業	【概要】三曲、即ち歌唱を伴う箏・三絃と尺八による伝統音楽の継承・発展を目的とし、将来を担う若手演奏家が流派や社中の枠を超えて自主的に研修する機会の提供を支援する。また、研修終了後に、その成果を発表する機会を提供する。 ①研修 講師に稽古を受けるもので、通年 ②育成 研修成果の発表、令和4年12月1日(木)東京 紀尾井ホール 【対象者】箏・三絃・尺八の演奏家

令和4年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業 採択団体一覧

*新型コロナウイルス感染防止対策等の理由により各事業内容やスケジュールに関して今後変更されることがあります。

通し番号	分野	団体名法人格	団体名称のみ	事業名	事業概要
26	伝統芸能	公益財団法人	現代人形劇センター	人形浄瑠璃乙女文楽・各座合同研修講座	【概要】乙女文楽の継承者の育成を目的として、研修講座を行う。乙女文楽は文楽の三人遣い人形に工夫を加えた高度な一人遣い形式の人形浄瑠璃。東西に伝承する座が存在し、その操法も異なる。その各座が合同で研修を行い、お互いの操法を学びあい、技芸と見識を向上させ、ジャンル全体としての後継者育成、発展を図る。年間で4講座実施する。 【対象者】東西に存在する乙女文楽の各座の座員、継承者
27	伝統芸能	公益社団法人	日本舞踊協会	令和5年各流派合同新春舞踊大会	【概要】新進の日本舞踊家を対象にコンクール形式の舞踊大会を開催、日頃の研鑽の成果を流派を超えて競い合い発表する。審査は日本舞踊界を代表する舞踊家で構成される協会役員、及び有識者が担当し評価を行う。育成対象者の技能レベルの向上と魅力ある日本舞踊家の育成に取り組み、日本舞踊界の活性化を図る。 【対象者】50歳以下の日本舞踊協会会員、40名程度。
28	伝統芸能	公益社団法人	鉄仙会	能・狂言鑑賞と教え方講座－能・狂言の授業をするために－	【概要】本講座は小中学校をはじめとした教員に向けた能楽講座で、自身の鑑賞・体験を通して次代の芸術文化の担い手となる子供たちへ古典芸術の素晴らしさを伝えられるようになることを目的としたもの。そしてその教えを受けた子供たちが能に興味を持ち、実際に能楽堂に足を運んでくれる観客となることを最終目的とする。8月18日(木)、8月19日(金)は講義・鑑賞・実技を含んだ総合的な講座を行い、20日(土)は実技体験を重点的に行う。 【対象者】全国の小中高等学校教職員、教職課程の学生
29	伝統芸能	公益社団法人	能楽協会	若鯨研究発表会「若鯨能」	【概要】次世代を担う若手能楽師の技芸向上及びプロの舞台に出演できる能楽師を多く誕生させることを目的とし、ベテラン能楽師を講師とした合同稽古及び発表の場の機会を提供する。 ①合同稽古 5月～6月 ②公演・発表会 6月 【対象者】能楽協会名古屋支部所属を中心とした若手能楽師及び会員の子弟
30	伝統芸能	特定非営利活動法人	日本音楽集団	日本音楽集団 夏期講習会'2022'	【概要】全国で活動する邦楽演奏者・演奏家を目指す若手、また教育者に向け、邦楽アンサンブルを習得する機会を提供する。 講習会 7月12日～13日 東京 【対象者】全国の邦楽演奏者(プロ、アマ、経験年数不問)各日35名程度
31	伝統芸能	公益財団法人	江戸糸あやつり人形結城座	人形と俳優のクロスオーバーⅢ	【概要】人形のみならず、現代演劇、能、コンテンポラリーダンスの各分野からも一流の指導者を招聘し、今までにない新しい世界を創造し、江戸糸あやつり人形の将来を担う、創造性豊かな人材を育成する。今年度は3ヶ年計画の集大成として、7月2日から約1ヶ月の稽古を積み、7月31日に公演を行う。 【対象者】①18歳以上で、「人形演劇」及び江戸糸あやつり人形や演劇に興味を持ち、将来の世界を志す人。②18歳以上でプロの表現者を目指し、人形や能、コンテンポラリーダンスを通して自らの身体性を見つめなおす意欲を持つ人。すでにプロとして活動している人の参加も可。
32	その他	公益社団法人	日本照明家協会	舞台・テレビジョンのための新進照明家育成公開講座(中央講座)	【概要】「創造と技術」をテーマに「深い知識・教養」と「高い技術」を追求する人材育成を目的とし、高度な技術を持つ上級者のための「中央講座」を実施する。東京・中部・関西・九州の各地域に於いて、11月頃から受講者募集開始する。講座は連続3日間、1日4～5コマで計12コマ、1コマ90分を予定。 【対象者】照明技術者技能検定2級を取得後3年以上または照明実務経験5年以上の照明家としての実績があり、中核となる者。(各会場10～20人程度を公募)
33	その他	公益社団法人	日本舞台音響家協会	舞台音響家のための公開講座	【概要】舞台音響技術の向上を目的に、初期教育としての《基礎コース》(1回、1日)、演劇音響分野における専門家育成としての《演劇コース》(東京、宮城会場連続2日)、研究テーマを設けて掘り下げていく《研究コース》(1回、1日)、高度な教育としての《技術コース》(1回、4日)の4種の実技をともなった講座を実施。 【対象者】舞台音響従事者、舞台音響に関心のある舞台関係者、一般。舞台音響家を目指す学生。
34	その他	特定非営利活動法人	映画美学校	映画・演劇を横断し活躍する俳優養成講座2022～演技を通じた新しいクリエイター創出を目的とする～	【概要】「映画と演劇」の表現の違いを俳優たちに意識させながら、双方の表現における演技の違いを体系的に理解させ、映画と演劇を往還する新時代の俳優の育成を目的として、①「カメラに写し取られた」演技の考察と実践のワークショップ②第一線の映画監督と舞台演出家による演技の指導、様々な演出家の元で経験を積み海外で活躍する俳優による演技の指導等を連携して実施。①5～10月(講義8～12回程度)②9月～令和5年3月(講義80回程度) 【対象者】①平成27年度～昨年度までの本事業修了生 ②18歳以上(職業・経験年数不問)
35	その他	一般社団法人	コミュニティシネマセンター	映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ2022	【概要】映画映像を軸に、地域の文化事業を担う人材を育成することを目的に、①シンポジウム「全国コミュニティシネマ会議」や、②上映者のための講座・ワークショップ、③ミニシアターや上映団体同士の連携事業、④Fシネマプロジェクトの4プログラムを実施。 【対象者】地域の映画映像事業に携わる人材、若手スタッフ等
36	その他	協同組合	日本映画・テレビ美術監督協会	明日を拓く映画美術スタッフ育成プロジェクト2022「映画美術スタッフ塾」	【概要】映画美術表現の基礎となる創造過程の学習として、短編シナリオを基に登場人物の分析、映像イメージプラン、美術デザインの作成、大道具技法の実習体験、装飾、小道具品の飾り実習、プロのスタッフによるセット撮影の実施等の美術助手育成教育の独自性を重視しています。優秀で志を持つ受講者を美術監督担当作品の研修者として参加してもらい、美術助手としての目標を達成してもらいます。 【対象者】映像関係を学ぶ大学生、専門学校生、卒業生(社会人)。
37	その他	学校法人	日本大学	大学連携による映画人育成のための上映会S.T.E.P.	【概要】映画教育を行っている14大学が会した全国映画教育協議会が中心となり、映画関連団体などと連携して若手映画人の作品を一般映画館で公開する。プロの講師による講評会、観客のアンケート等による作品の評価を通じて若手映画人のステップアップを促すとともに、優れた若手映画人を世に送り出すことに寄与する。 【対象者】全国映画教育協議会参加校を中心とする学生及び卒業生、映画祭などの受賞作品の制作関係者で経験年数10年以内の者
38	その他	公益社団法人	全国公立文化施設協会	ワークショップリーダー養成講座1—シアターエデュケーションプログラムを学ぼう—	【概要】アメリカで実施されている「シアターエデュケーションプログラム」のワークショップについて、専門家を招聘し、劇場・音楽堂等の職員及び実演家を対象に、ワークショップの目的、効果、実施方法などメソッドを体系的に学ぶ。また、ワークショップを通じ、劇場と実演者のネットワークが生まれ、各地域のワークショップ事業の基盤となることを目指す。 実施：令和4年9月末(3日間) 会場：東京 【対象者】劇場・音楽堂等職員(企画担当者等)、演劇ワークショップを実施する実演家

令和4年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業 採択団体一覧

*新型コロナウイルス感染防止対策等の理由により各事業内容やスケジュールに関して今後変更されることがあります。

通し番号	分野	団体名法人格	団体名称のみ	事業名	事業概要
39	年鑑・調査研究	公益社団法人	日本演奏連盟	演奏年鑑2023 ― 音楽資料 (通巻第49号)	【概要】国内のクラシック音楽界の動向を研究するとともに最新の音楽資料の収集、後世に残る貴重な資料に資するため、全国各地の音楽ホール・会館で開催されているクラシックの演奏会を調査、記録し、数値データに表す。また、国際音楽コンクールやセミナー・講習会、奨学金制度、音楽関係者名簿等の情報も掲載する。WEB上での公開も積極的に進める。 【作製：1,500部】
40	年鑑・調査研究	公益社団法人	国際演劇協会日本センター	『国際演劇年鑑』(日本編・海外編)の編集と発行	【概要】日本と海外との演劇交流を促進するための知識基盤を形成するとともに 現場の演劇交流の多様なチャンネルを確保し拡大するために、「日本編」と「海外編」二分冊で「国際演劇年鑑」を発行する。「日本編」では日本の演劇状況をジャンルごと(10ジャンル)に英語で紹介、「海外編」では海外各国・地域(20か国前後)の読者に対して紹介する。WEBでもカラーPDFを公開。また海外戯曲を紹介する特集企画「紛争地域から生まれた演劇」等のテーマに沿った戯曲集を別冊で発行する。 【作製：日本編1,000部、海外編1,050部、戯曲集600部】
41	年鑑・調査研究	学校法人	東成学園(昭和音楽大学)	『日本のオペラ年鑑2021』編纂・刊行事業	【概要】日本のオペラ界の状況の総合的な把握を可能にすることを目的に、2021年一年間に行われた我が国のオペラ公演に関する定量的な分析、主要な公演を概観する記事とともに、時事的な問題あるいは我が国のオペラ界が抱える課題に関する特集記事を掲載した『日本のオペラ年鑑2021』を編纂・刊行する。また、公演情報を中心にWebで公開する。 【作製：1450部】
42	年鑑・調査研究	公益社団法人	日本オーケストラ連盟	日本のプロフェッショナル・オーケストラ年鑑2022	【概要】我が国のオーケストラの活動状況を通じて、芸術文化活動(クラシック)の現状を把握し、演奏団体自身、加えてその活動を支える国、自治体、企業、国民が解決すべき課題などを把握し、今後の活動を更に充実したものにするに役立てることを目的とする。オーケストラ活動に関わる数値データを整理し年鑑を刊行するとともに、ホームページ上でも公開する。 【作製：3000部】
43	年鑑・調査研究	一般社団法人	現代舞踊協会	舞踊公演アーカイブ事業《舞踊年鑑2022と舞踊公演データベース》	【概要】舞踊家のみならず研究者やマスコミ等の利用に供することを目的に、年間における我が国の舞踊分野の舞台活動について可能な限り正確な公演情報を収集・調査・整理し、データベース化してWEB上で公開するとともに、「舞踊年鑑2022」を発行する。 【作製：1000部】
44	年鑑・調査研究	公益社団法人	日本演劇協会	「演劇年鑑」の作成	【概要】1920年に本会母体となる「劇作家協会」が菊池寛、山本有三両氏を中心に組織され、1941年に「日本演劇協会」が設立されるが終戦と同時に解散、翌1946年に「劇作家組合」として立ち上がり、1951年に「日本演劇協会」と改称。1953年に(社団法人)認可。以来1年も途絶えることなく現在に至る。情報基盤を築き、演劇文化振興及び演劇人の育成に寄与することを目的に、通年の公演情報を収集。それらを整理、記録し概況と共に刊行物として関係各方面に配布し、WEB上でも公開する。 【作製：550部】
45	年鑑・調査研究	特定非営利活動法人	国際人形劇連盟日本センター	「'22 日本の人形劇」の発行	【概要】全国の人形劇団、伝統人形劇伝承団体、人形劇関連団体約200団体からの情報をもとに、日本全国の伝統人形劇、現代人形劇の1年間の活動状況を詳細に記録し「'22日本の人形劇」を発行し、Web上でも公開する。また人形劇創造を目指す若手芸術家の育成に資することを目的に、国際ウニマ(国際人形劇連盟)の協力により主にヨーロッパを中心とした国々の人形劇事情を提供する。 【作製：600部】
46	年鑑・調査研究	一般社団法人	日本劇作家協会	現代日本の劇作(英語)	【概要】日本の現代戯曲を英語に翻訳して海外で紹介(国内外の劇場や演劇関係者などに配布)し、海外での日本現代劇の上演といった、演劇の国際交流のより深い可能性を生み出し、ひいては日本の現代の芸術文化の生き生きとした動きを海外に伝えることに寄与する。(翻訳作品は3作品を選定) 【作製：300部】
47	年鑑・調査研究	協同組合	日本シナリオ作家協会	'21年鑑代表シナリオ集(2022年発刊)	【概要】シナリオ作家、映画監督、プロデューサー、撮影監督、美術監督、録音、編集、照明、スクリプター、俳優など映画製作に携わろうとするすべての新進映画人を育成することを目的に、前年を代表する優れた邦画のシナリオを10篇程度収録する「年鑑代表シナリオ集」を出版する。 【作製：200部】
48	年鑑・調査研究	公益社団法人	企業メセナ協議会	民間のメセナ活動および国内外の芸術文化振興に関わる調査研究	【概要】日本の企業メセナの実態を継続的に調査し、現代の社会創造に貢献する企業メセナを把握し『Mecenet Report 2022』にまとめ、国内外へ発信する。また、「メセナアソシエイト」、「協議会アソシエイト」、「メセナライター」事業において、外部の若手研究者やアートマネージャー、民間企業人等を募り、芸術文化の専門的知識のみならず、企業からの視点を持つ人材を育成するとともに、事例研究およびレポートは協議会ウェブサイトで開催する。 【作製：『Mecenet Report 2022』：2000部】
49	年鑑・調査研究	特定非営利活動法人	日本現代音楽協会	『日本作曲年鑑2021』作成・出版事業	【概要】現代日本における芸術音楽創造の基礎データの蓄積を目的として、日本で2021年度に作曲された芸術音楽の作曲家の作品の情報を網羅的に収集、整理して、『日本作曲年鑑2021』として日本語及び英語で出版する。出版物は全国の主要図書館、音楽図書館、大学、主要研究機関、演奏団体や海外の日本文化機関、音楽機関等に送付する。 【作製：1000部】
50	年鑑・調査研究	一般社団法人	コミュニティシネマセンター	「映画上映活動年鑑2022」の作成	【概要】「興行」に関する既存のデータや情報を活用しながら、映画祭や公共上映に関する独自の調査データと合わせて、幅広い視点から現在の映画の[上映]を提示・分析し、「映画上映活動年鑑2022」を作成する。WEB上でも主要部分を公開する。 【作製：300部】

令和4年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業 協力者会議委員一覧

音楽分野

加納 民夫
加納 マリ
小鍛冶 邦隆
津上 智実
長木 誠司

舞踊分野

海野 敏
岡見 さえ
菊丸 喜美子
菘 あつこ
長野 由紀

演劇分野

井上 桂
田窪 桜子
林 尚之
中山 夏織
渡辺 弘

**大衆芸能分野
伝統芸能分野**

阿部 さとみ
児玉 信
布目 英一
畑 律江
前田 憲司

その他分野

五十嵐 卓
杉浦 幸子
富田 美香
久野 敦子
間瀬 勝一

年鑑・調査研究分野

楫屋 一之
齊藤 裕嗣
中村 孝義
法月 敏彦
横山 勝彦

(五十音順・敬称略)